北米第7位の総合林産大手

インターフォー（カナダBC州バンクーバー、ダンカン・デイビス社長）の事業成長は著しく、製材生産能力は北米林産企業で第7位の規模となっている。ここ数年、製材工場の買収を加速させており、年間生産能力は26億BF（実材積換算推定420万立方㍍）と、2002年時比では3倍以上の拡張だ。強みは、地理、生息樹種が異なるカナダの内陸・沿岸部、米国の南部・北西部の4つの地域にバランス良く生産拠点を保有している点。多様な製品を多様な市場に効率的に供給することに加え、為替やストライキのリスクを分散できることが、経営の安定性に貢献している。

インターフォー

インターフォーの日本支社であるインターフォージャパンリミテッド（東京都、岩見尚浩支社長）の日本向け供給品目は、カナダツガ・米松・ウエスタンレッドシダーの製品、SPFディメンション材など。昨年は、強度HG」を導入した。日本向け出荷を行っている3工場が同じグレーディングタイミングで生産を行うことで、品質基準の整合化が図られている。

また、日本向け供給を増やすために昨年、力を入れて取り組んだのが小角製品を安定供給するための体制づくりだ。森林管理、原木伐採、製材の各部門が情報を共有することで、市場が求める量・サイズの原木を適切なタイミングで集め、製品をタイムリーに生産・供給できるようにした。

14年は伐採も順調に推移し、日本向け主力工場であるエーコン工場には一定規模の原木在庫を備蓄している。安定供給にはほぼめどがついている状況だ。

対日3工場に最新鋭オートグレーダー設置

昨年には米松ディメンションの日本向け販売も開始した。仕向け国比率は、中国が35%、米国、カナダが25%、日本が15%。

最新鋭工場だけあって、生産効率を高めるための設備、工夫が随所にこらされている。搬入された丸太は、土場からではなく、タイミングを合わせて、トラックから丸太投入口に直接搬入される。

製材工程の要であるキャンターラインの処理能力は1分当たり最大約220㍍と国内屈指の性能を誇る。

また、丸太の形状から、最適な製材、効率、歩留まりを自動で判断するオプティマイザー機は、キャンター、エッジャー、トリマーの各工程に配置されている。複数のオプティマイザーが、工程ごとに歩留まりを再計測することで生産効率の向上につながっている。

04年に設置したプレーナーは、インラインMSR（強度等級機）を備え、1分当たり最大約850㍍を加工する。スキャニングシステムは0・25秒で1つの製材をチェックできる高速さだ。

また、同工場の見どころの一つが12年に設置したUSNR社の最新鋭のオートグレーダー「LHG」だ。レーザーセンサーが木材のサイズ、曲がり、ねじれ、割れ、丸身、穴などを認識する従来機能に加え、新システムでは、レントゲンが、木材内部にあって目には見えない、節、腐れなどの欠点を検出する。ブルーステイン、小口割れなどの外見上の欠点をスキャンする4面カメラも新機能だ。材のMSR強度も計測可能。ただし、最終工程にはオートグレーディングスタッフも立ち合い、最終確認を行っている。

KD設備は6基あり、各金の処理能力は25万BMで、乾燥能力は計160万BF。KD釜の燃料は、工場に併設しているバイオマス発電で作られた熱源を利用している。樹皮を燃やし、オイルを熱することで熱源としているが、工場内の暖房にも利用している。

生産性の高さと並び、多樹種・多製品に対応する生産の柔軟性も同工場の特徴の一つだ。比重の異なるSPF、米松という2樹種を取り扱うことができるほか、従来は小径木対応の工場だったが、大径木（最大25㌢）にも対応できるようになった。

オートグレーダー「LHG」。レントゲン機能が木材内部の欠点を3Dで映し出す

アダムスレイク工場

内陸部屈指の最新鋭工場

アダムスレイク工場は、BC州カムループス近郊、アダムス湖を臨む立地にある。09年に総工費150億円以上の投資を行って工場設備を刷新し、内陸部屈指の最新鋭工場に生まれ変わった。

年間生産能力は4億BM（実材積換算推定66万立方㍍）、樹種比率は75%がSPF、25%が米松。米松のうち、69%がディメンションで、19%がアクセスマット（路面補強材）、12%が原板となる。

エーコン工場

日本向け47%の対日主力工場

BC州デルタ市にあるエーコン工場は日本向け小角の生産工場として代表的な存在だ。年間生産能力は38万立方㍍で、使用樹種は、カナダツガが75%、米松が25%。オフショア市場をターゲットにした工場であり、仕向け先比率は、日本が47%、中国・台湾がいった具合に、その45%、北米7%、韓国1%である。工場は、丸太の玉切り、製材、プレーナーの3工程で構成されている。同社のモットーは「工場が生産する製品ではなく、市場が求める製品を作る」。

それを実行するために熟練のグレーダーを配置し、厳格な品質管理を行っている。1日数回の抜き打ち検査も実施している。

KD設備はドイツ、ブルーナー社の真空釜を使用しているのも同工場の特徴の一つだ。釜は4基あり、年間の乾燥能力は計500立方㍍（1カ月4回転）。真空釜は仕上がりがソフトで、割れやねじれが起こりにくい。

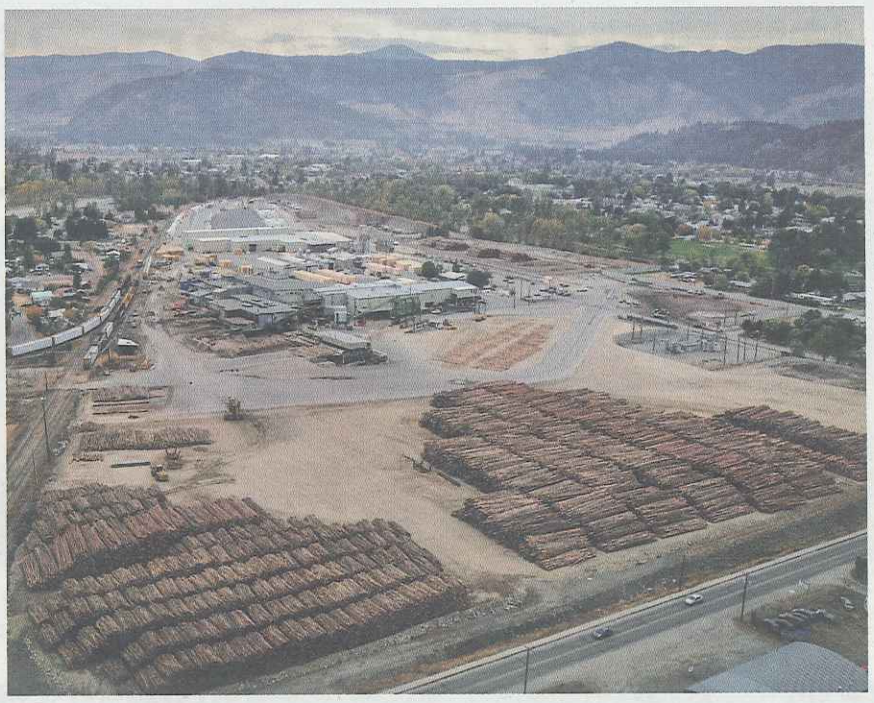
第2のポイントは、品質を高めるためのグレーディング強化だ。製材、プレーナー、梱包の各生産工程に熟練のグレーダーを配置し、厳格な品質管理を行っている。1日数回の抜き打ち検査も実施している。

KD設備はドイツ、ブルーナー社の真3機のカメラで撮影し、丸太の形状を3Dで把握、丸太に見合った最適サイズを自動的に計算する。

エーコン工場

訂正　4月8日付6面、インターフォーの記事中、「北米第7位」とあるのは4位の誤りでした。

INTERFOR®

インターフォーはカナダ林業界のリーディングカンパニー。
植林から製材までの一貫生産で安定供給を実現。
環境への責任を果たしながら、最適な製品を提供してまいります。

インターフォー ジャパン リミテッド
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町1丁目7番7号 笠原ビル6F
Tel. 03-5641-2351　Fax. 03-5641-2383
http://www.interfor-japan.com/